



学校だより

福島県立郡山支援学校
令和2年 12月4日
令和2年度 第2号

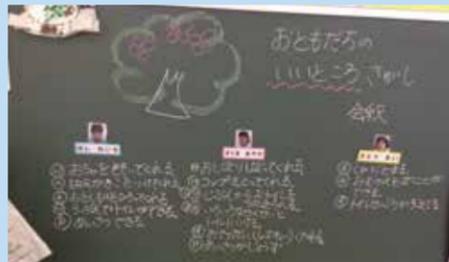
学校経営・運営ビジョンに基づく、本校の取り組み状況をお知らせします。

学びの充実

☆授業の充実・改善と専門性の向上

「特別の教科 道徳」の指導の充実

本校での道徳の学習は、道徳科の時間、または、教育活動全体を通して指導を行っています。児童生徒一人一人の発達段階に応じた指導を行うために、教科書として一般の教科書を使用して学習を行うこともあります。また、実際に体験しながら集団や社会とのかかわりに関する学習を大切に、道徳で学んだことが日常生活に生かされるように努めています。



友達の長所を話し合いながら、「友情」「信頼」「思いやり」について学んでいます。



給食ワゴンの片付けを通して、「勤労」「感謝」について学んでいます。



AT（支援）機器の活用

小学部では、様々なAT機器を活用し学習に取り組んでいます。本校には、子どもの動きに応じて使用できるよう、様々な形状のスイッチがあり、そのスイッチを使って機器を操作することで、「自分でできた！」という経験がたくさんできます。植物への水やりでは、水の入ったじょうろは重くても、電動じょうろにスイッチをつなぐことで、簡単に水やりをすることができます。また、扇風機にスイッチをつなぎ、自分でスイッチを押すと、風を起すこともできます。

自分の力でスイッチを操作し、目的を成し遂げたり、楽しい活動をしたりできるよう日々学習に取り組んでいます。



生活の充実

☆安心して学べる環境づくり

いじめの未然防止

児童生徒の言動等のわずかな変化を見逃さず、早期相談、早期対応に取り組み、いじめの未然防止に努めています。第1回いじめに関するアンケートの結果については、本校ホームページにて掲載しております。また、長期休業明けは、児童生徒にとって生活環境が変化する契機になり心が不安定になる傾向にあると言われています。あいさつによるコミュニケーション力が向上すれば、いじめの未然防止につながるという考えのもと、児童会・生徒会を中心に定期的なあいさつ運動を行っています。



安全教育 — 火災から安全に避難するために —

春に予定していた訓練が、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となったため、約1年ぶりに10月13日（火）に避難訓練を実施しました。久しぶりの屋外避難で、昨年より移動に時間を要しましたが、火の粉や煙から身を守るためにほぼ全員がヘルメットや防災頭巾・マスクを身に着けて、安全に2階の駐車場まで避難することができました。



支援の充実

☆地域で共に学び共に生きる教育の推進

特別な支援を要する幼児児童生徒への支援

地域支援センターでは、障がいのある子どもたちを支える行政・福祉機関と連携を深め、情報を共有するために、県北・県中・県南地区、会津・南会津地区の教育委員会15か所と保健福祉機関24か所を訪問しました。また、就学前の在宅重度心身障がい児（医療的ケア児）への支援に向けて、郡山市内の医療機関を訪問したり地域自立支援協議会等へ参加したりして広報や啓発活動に務めました。お互いのことを知る「顔の見えるつながり」ができ、実際訪問後に関係部署の方から問い合わせがあったり、教育相談につながったりしています。

8月20日（木）

「地域支援センター
特別支援教育研修会」の様子
地域支援センター主催

